長岡地区租税教育推進協議会長賞　優秀

これからの税金・これからの日本

新潟県立長岡大手高等学校
三年　五十嵐　沙月

日本の歳入の約半分は税金によるものです。それだけ日本という国にとって、税金は大切なものです。そして、高齢化が進む現代において、社会保障は必要不可欠なものだと思います。

定年し収入のなくなった高齢者の方々にとって、医療費などの一部を国が税金で負担してくれることは、大きな支えになっていると思います。しかし、高齢化が進むということは、高齢者にかかる医療費も増え、歳入が増えなければ、高齢者一人あたりに対する保障が薄れたり、国の負担がとても大きくなってしまったりします。

そこで、国の歳入を増やし、社会保障を持続またはより良いものにするために、私たちのような、これから働く人たちや今働いている人たちが税金をしっかり納めていくことが大切だと思います。特に国に納める所得税は直接税のため、累進課税制度により、一生懸命働けば働くだけたくさんの税金を納めることになり、歳入の増加を助けることができると思います。

私たちの身近な税金に消費税があります。消費税は、財やサービスがたくさん売れればその分だけ納められることになります。二〇二〇年に開催される東京オリンピックでは、世界中から多くの人が日本に来ることが予想されます。せっかく日本に来たのだから、オリンピックを観戦するだけでなく、観光もするでしょう。買い物もたくさんするでしょう。そうなったら、経済の発展とともに、たくさんの消費税も発生するということになります。これは、全体を見たらほんのわずかかもしれませんが、少しは歳入の増加につながるのではないかと思います。

私が今身近に感じ、納めている実感があるのは消費税だけですが、職に就き、自分で収入を得ることができるようになったら、自分がどんな税金をどれくらい納めているのかを理解した納税者になりたいと思います。国は私たちの税金を納めることで成り立っているという認識をしっかりと持ち、これからの日本は私たちがつくるということを常に頭におきながら、納税の義務を果たしていきたいと思います。